

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

柳 収 一 郎

○千葉県佐倉市

民間プールを活用した水泳授業の民間委託について

【所 見】

2校の小学校のプールが老朽化したことにより高額な建設費を投入するのが良いのか、市内にある民間スイミング施設に委託するのが良いのか、総合的に判断をされたものであるが、全国的にも数少ない例で、最も重要視した点は夏場しか使用しない、つまり、年間のうち一時期に限られるところであった。素晴らしい決断であったと感じた。

佐倉市内にはスイミングプールが複数あったが、契約に際しては、移動時間を考慮しなければならないこと、実質授業時間は他の小学校の児童とは多少を生じても止むを得ない等、弾力的に検討したようだ。

授業は、午前中に行っておりスイミング側も比較的的空いており受託側にもメリットは大きいと感じた。

実施場所の概要は、25m×7コース、室内温水プール、更衣室・ロッカー完備（専有使用）、送迎バス（中型）5台保有し、両小学校からも6キロメートル以内、移動時間は15分程度で、特に温水プールが他の小学校と比較すると魅力で、また、専門の指導者がいることも安全性を考慮すると判断の一つであったと思う。

また、実施期間は、平成27年度の例では5月25日～10月30日のうち12日間で、真夏に限らず温水プールならではの利点である。

水泳指導時数は、年間8時間で他の小学校の児童や教育課程内での他教科とのバランスも考慮している。

役割分担としては、学校側は、実施計画の作成、保護者へのお知らせ、グループ分け、健康観察。教育委員会指導課は、視察、ヒヤリング、事業計画立案、事業者選定、契約事務。スイミング側は、指導計画書の作成、バス運行計画の作成、指導体制確立、スタッフ研修等を実施しており、万全を期しているように感じた。

委託経費は、平成27年度では、約9,055千円（一人当たり5,670円）参考であるが、佐倉市内の小中学校のプール維持費は、年間1校当たり95万円であった。建設費や修繕等考慮すると委託の方が効果は大きいと感じた。

スイミングプールを利用した事後のアンケート結果を聞いても明らかであり、児童たちは、79%が水泳学習はとても楽しかったと回答している。保護者や職員は天候に左右されず計画通りに実施することができた、楽しく学習し水泳学習への意欲が高まったと、好評である。

2校の小学校のプール建設の経緯は、佐倉小学校が、当初、地域の方の寄付でプールを建設、西志津小学校が市内の学校で最初にプールを建設したもので、地域住民はそれぞれ思い入れがあったようで、丁寧な説明をしてきたとのことで大変時間もかかったものと推察した。

本市においても、今後プールの更新時期が来たら民間委託を検討すべきと感じた。

○千葉県我孫子市

新規就農者育成事業について

【所見】

当市は、東京のベッドタウン化による急激な宅地開発に伴って人口が急増し、住都市として変貌を遂げてきた。

従って、現在では農家の数も、20年前と比較すると953件から417件と半数になっているが、耕地面積は1,005haから773haと半数ほどは減ってなく、全国的な傾向であるが就農者不足と言えると感じた。

そこで、新規就農者支援事業は、平成22年度からスタートをしたが27年度末では新規就農者は、19件の24人で一定の成果があったものと思う。ただし、米の新規就農者はなく、野菜のみの新規就農者でも農家の子息等はおらず全員非農家の人たちであった。なかなか後継者は難しいのであろうか。年間の収入は、200万円～250万円の間で深刻な問題である。

補助金面における支援（就農後5年度を限度）としては、農地の賃借料補助は年額10万円、農業用施設等の整備費補助は経費の2分の1で50万円を限度、目立った補助としては宣伝広告費補助である。経費の2分の1で10万円を限度など本市においても取り入れても良いと感じた。

また、最近では、「我孫子市新規就農者連絡協議会」が設立され新規就農者同士での横のつながりを深めており、行政は今後も活動を支援していくことなど大変参考になった。